

主題：神の奥義の執事

メッセージ 21

神の召会——生ける神の家、真理の柱また基礎、肉体における神の現れ

聖書：Ⅰコリント 10:32. Ⅰテモテ 3:15-16. 2:4

I. 主の心の願いは召会を得ることです。ですから、わたしたちは召会を尊び、召会を愛すべきです。それは主がそうしているように、またパウロがそうしたようにできえあります——マタイ 16:18. 13:44-46. 使徒 20:28. エペソ 1:5, 9. 5:25-27. Ⅱコリント 12:14-15。

II. 召会は神の召会です——Ⅰコリント 10:32. 11:16：

A. 「神の召会」という表現は、召会が神によって所有され、召会が神の性質を持っており、神の要素で構成されていることを示します——使徒 20:28. ガラテヤ 1:13。

B. 召会が神のものであるのは、それが源としての神から生み出され、神をその性質また本質として持っており、神聖で、宇宙的で、永遠であるからです——Ⅰコリント 10:32：

1. 神は召会の性質また本質です。ですから、召会は神聖です——啓 1:12, 20。

2. 召会の内容は本質的に神ご自身です——Ⅰコリント 3:16-17。

III. 召会は生ける神の家です——Ⅰテモテ 3:15：

A. 神の家は神の家族です——エペソ 2:19：

1. 神の家族は神の多くの子たち、すなわち、神の長子キリストの多くの兄弟たちから成っています——ローマ 8:29. ヘブル 2:10-12。

2. 御父は彼の家族の分離した肢体ではなく、すべての子供たちの中にいます——ローマ 8:10. 12:4-5. Ⅱコリント 6:16。

B. 神の家としての召会について語る時、パウロは神を生ける神として指しています——Ⅰテモテ 3:15：

1. 生ける神は召会の中に生きており、召会にとって主観的でなければならず、単に客観的であってはなりません——Ⅰコリント 3:16。

2. 神は生きているので、神の家としての召会も彼の中で、彼によって、彼と共に生きなければなりません。生ける神と生ける召会は共に生き、行動し、働きます——マタイ 16:16. Ⅰテモテ 3:15。

C. 神の家として、召会は神の住まい、すなわち、神が彼の安息を持ち、彼の信頼を置くことができる場所です——エペソ 2:22：

1. 神はこの住まいで生き行動して、彼のみこころを完成し、彼の心の願いを満足させます——1:5, 9, 11. ピリピ 2:13。

2. 神は彼の住まいとしての召会の中で、ご自身を表現します。彼であるすべて、彼が行なっているすべては、召会の中で表現されます——Ⅰコリント 3:16. 14:24-25。

IV. 召会は真理の柱また基礎です——Ⅰテモテ 3:15：

A. 主は彼の召会が真理としての彼を知り、命としての彼を受けて享受することを願っ

ています—— I ヨハネ 1:1-2, 5-6. ヨハネ 11:25. 14:6. 18:37 後半。

B. 「真理」は実際を意味し、神の言葉の中に啓示されているすべての実際の事柄を指しており、それはおもに神の具体化としての召会と、キリストのからだとしての召会です—— I テモテ 2:4. コロサイ 2:9, 19。

C. 召会の内容は、真理また命としての、わたしたちの中のキリストの増し加わりでなければなりません—— 19 節. 3:4。

D. 召会は真理を支える柱、また保持する基礎です—— I テモテ 3:15 :

1. 真理とは三一の神であり、キリストを具体化、中心、表現としており、キリストのからだ、神の家、神の王国としての召会を生み出します——コロサイ 2:9. エペソ 1:22-23. 4:16. I テモテ 3:15. ヨハネ 3:3, 5。

2. I テモテ第 3 章 15 節の「真理」は、神の新約エコノミーにしたがった、キリストと召会に関して新約に啓示された実際の事柄を指しています——マタイ 16:16, 18. エペソ 5:32。

3. 召会は実際としてのキリストを担っています。召会は全宇宙に、キリスト、キリストだけが実際であることを証しします——ヨハネ 1:14, 17. 14:6。

V. 召会は肉体における神の現れです—— I テモテ 3:15-16 :

A. 神の現れはまず、肉体における個人的な表現としてのキリストの中にありました—— 16 節. コロサイ 2:9. ヨハネ 1:1, 14。

B. I テモテ第 3 章 15 節から 16 節は、かしらとしてのキリストご自身だけが肉体における神の現れではなく、キリストのからだまた神の家としての召会も肉体における神の現れ、すなわち敬虔の奥義であることを示しています :

1. 16 節の「敬虔」は、うやうやしさだけでなく、神が召会の中で生きていること、すなわち、召会の中で生かし出されて表現された命としての神をも指しています。

2. 神は召会（神の家またキリストのからだ）の中で、肉体における拡大された団体の表現として現れます——エペソ 2:19. 1:22-23。

C. 召会が I テモテ第 1 章から第 3 章に書かれていることにしたがって顧みられるとき、その召会は生ける神の地上での行動のための家として、また真理の柱また基礎として機能し、キリストと彼のからだの実際を担います—— 3:15. エペソ 5:32 :

1. そのような召会は、キリストが肉体における神を現すことの継続、すなわち、キリストが神の現れとしての召会を生かし出すことの継続となります。

2. これは肉体と成るという新約の原則にしたがった、さらに広い面での肉体において現された神です。それは、神が人の中に入り、ご自身を人とミングリングして、人をご自身と一にすることです—— I コリント 7:40. ガラテヤ 2:20. ヨハネ 15:4-5。